

# **福島第一原発のトリチウム水海洋放出 についての私見**

～小名浜在住の一市民の立場から～

いわき市小名浜 小松理虔



## 小松 理虔

1979年いわき市小名浜生まれ  
地域活動家・ライター

### 水産との関わり

#### **2013年秋より いわき海洋調べ隊「うみラボ」の活動**

30回を超える原発沖の海洋調査

アクアマリンふくしまと共同で線量測定と情報発信

#### **2016年より 地元仲卸業者とのプロジェクトに参加**

小名浜さんま郷土料理再生プロジェクト

あおいちプロジェクト

#### **2017年冬より 地元鮮魚店にて「さかなのば」主宰**

鮮魚店を会場に、地元の肴と酒を楽しむイベント

30回で、1500人以上を動員

## うみラボなどの活動を通じてわかったこと

- ・ 科学的なデータは、個々の選択の「ひとつの材料」に過ぎない
- ・ データの出し方は注意が必要（権威的になってはいけない）
- ・ そもそも「学ぶことの楽しさ」のようなものと接続する
- ・ 人は無関心に見えてそれぞれ考えて行動している
- ・ 本邦はデータや知見を材料に合意形成するのが得意ではない
- ・ どのような活動をして、ネットでは中傷される
- ・ 科学者や研究者と「市民」との協働がカギ
- ・ ある種の「地域づくり」「コミュニティづくり」として捉えることが重要
- ・ 人と人の関わり、信頼性がないと届かない・続かない

## **トリチウム水に対する基本スタンス**

**放出によって、自分にどんなメリット、デメリットがあるか**  
**放出によって、その困難を背負う人たちはなんと言っているか**

**自分の問題として考え**  
**かつ、当事者の声に耳を傾けたい**

トリチウム水の放出によって・・・

**勝手な懸念：基準どおりに放出してくれるのか。情報の透明性は担保できるのか。  
というか、そもそも東電やエネ庁は信頼できるのか。**

**第三者機関などは調査に入れるのか。**

**▶信頼構築、情報の透明性の問題**

**漁業の自立がまたさらに遅れるのではないか。**

**試験操業が長引くと、漁業のなり手が減るのではないか。**

**賠償が切れたときに廃業するベテラン漁師が結構いるのではないか。**

**漁業が衰退すると、地域の魅力が大きく減じるのでは？**

**▶産業再生の問題、地域づくり的な問題**

**安全かどうかを問うと、反対している漁業者が悪者に見えないか。**

**安全かどうかという問題設定が、漁業者を追い詰めているのではないか。**

**漁業者が復興を遅らせている、という声が散見されるのはなぜ？**

**▶国、行政機関の不作为、責任逃れの問題**

**科学的・医学的・物理学的な問題、ではなく、  
合意形成の問題であり  
漁業と地域の再生ビジョンの問題**

**したがって現在の状況では反対せざるを得ない。  
ほんとうに、陸上保管の手法や、新たな用地取得の可能性を探ったのか。  
県や市は、漁業の再生をどう考えているのか。  
国は周辺各国や消費者への発信をしてくれるのか。**

**その後の、中間貯蔵施設、最終処分場の運用は？  
この調子で廃炉なんてできないのでは？**